

自施設の防災訓練 災害用備蓄 ～業者と行う在庫管理～

社会医療法人雪の聖母会 聖マリア病院 竹内 正志

災害時を想定した大量の院内備蓄はスペースや使用期限の問題等の管理的側面より多くの課題を抱えている。当院では管理的側面の課題をディーラーと協力し対応しているので紹介する。

当院が所在する筑後地方は日本三大暴れ川の一つ、筑紫次郎こと筑後川が流れており水害対応が重要となる。当院ではディーラーや納入業者と平時から協議を重ねている。



当院が利用しているディーラーは筑後川を挟んで南側、北側それぞれに倉庫を構え、有事の水害や道路状況に対応できる体制を取っている。その為当院の備蓄は、医師と協議のうえ最低 3 日分の透析液、ダイアライザ、生理食塩液、補液回路としている。備蓄スペースは、消防法によりスプリンクラーを備えた部屋が必要であると示されているため留意が必要である。



備蓄器材等の期限管理に関しては、通常は全自動装置を用いて透析液によるプライミング、緊急補液、返血を行っているが、災害時に透析液の清浄化が保てなくなった場合、全自動機能が使用できない事が想定される。備蓄物品の滅菌切れ対策も兼ね、年に数回手動での血液透析を少数のベッドで行い、補液回路の滅菌日管理、手動手技の再教育を行っている。

掲載日：2023年11月28日